

校長室から応援メッセージ(1)

令和7年5月15日(木)

「私は矢印 」(風でもいいけど)

皆さん、こんにちは。5月も半ばになり、初夏らしい陽気を迎えています。山梨予備校の授業が1カ月ほど経過しました。いかがお過ごしでしょうか。私はこれから毎月一度、皆さんの前に登場し、応援のメッセージをお届けします。迷惑がらず、是非とも温かい気持ちで受け取ってほしいと思います。

さて、先日の全統共通テスト模試「公民、倫理」の問題で古代ギリシアの哲学者ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想をそれぞれ説明する三つの文の正誤を判断する問題がありました。この問題については授業でも触れたのですが、それに関連して思うところをここで述べさせてください。

プラトンは現実の世界を超えた、アイデアの世界が真の实在と考え、アリストテレスはアイデアは個々の事物に内在していると考えました。人間について言うなら、理想とする本当の自分はどこか別にいるのか、そうではなく現実の今生きている自分に本当の自分を求めるのか、という見方の違いです。

受験生は模試の成績が返却され、理想の自分と現実の自分との間のギャップに悩みます。必ず悩む…、悩んで当たり前のような言い方で申し訳ありませんが、一般にはそう言われます。そして模試の成績が手元に届くたびに理想と現実との間にたくさんの段階を想定し、自分は今どの辺にいるのか、という形で自分を評価します。

しかし私たちはどこかの場所に位置している物体ではありません。強いて言えば、私たちは矢印なのです。矢印の始点でも到達点でもなく、矢印そのものです。何のことか全くわからないや…、いきなりそんなこと言われてもモジモジしてしまうばかりや…、ではなく、「私は矢印」と考えてください。



これがイメージです。自分が矢印ですから自分にその矢印は見えません。感じるだけです。目に見えないといっても、イメージとしては上を向いているのが自然です。皆さんが矢印になりきった時、山梨予備校にはきっと爽やかな風が吹き抜けているでしょう。私はその風を感じていたいと思います。以上で今回のメッセージを終わります。